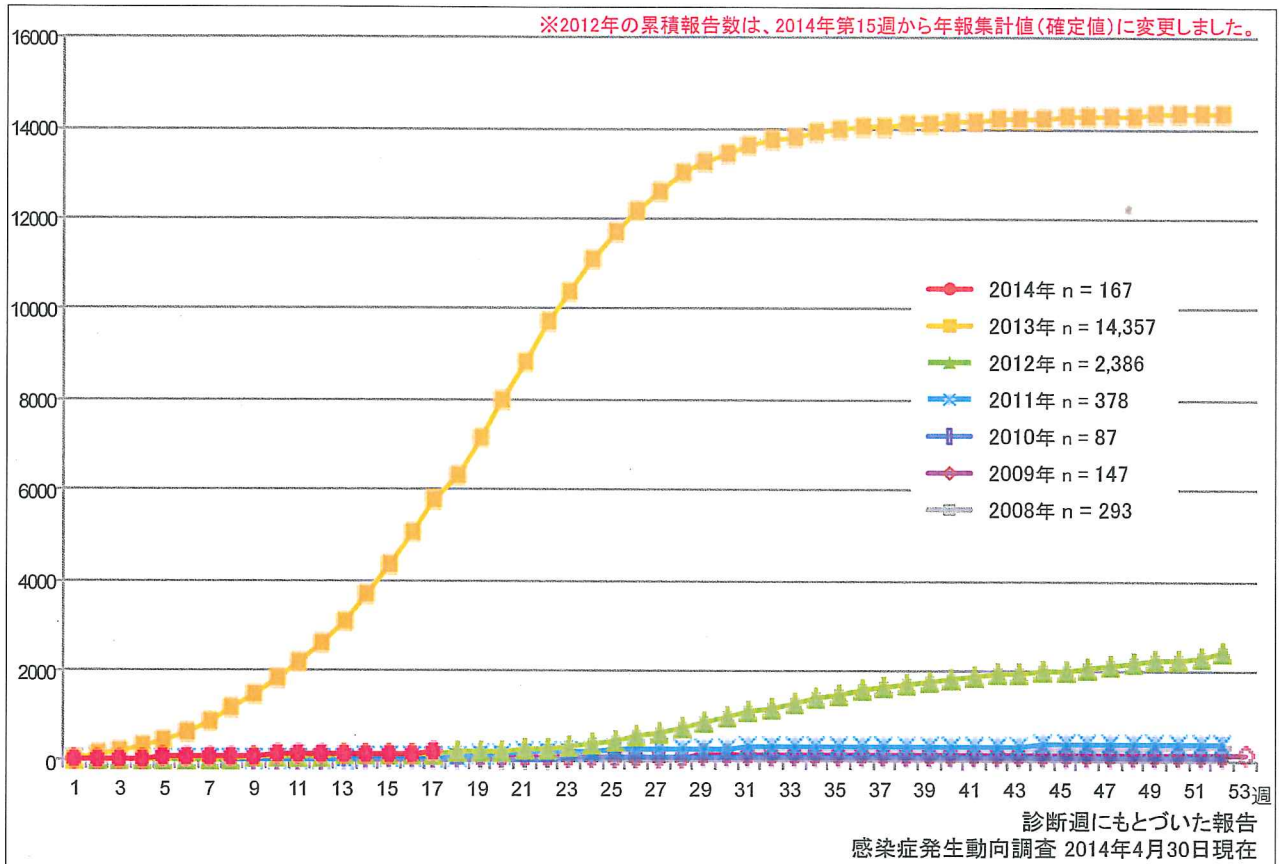
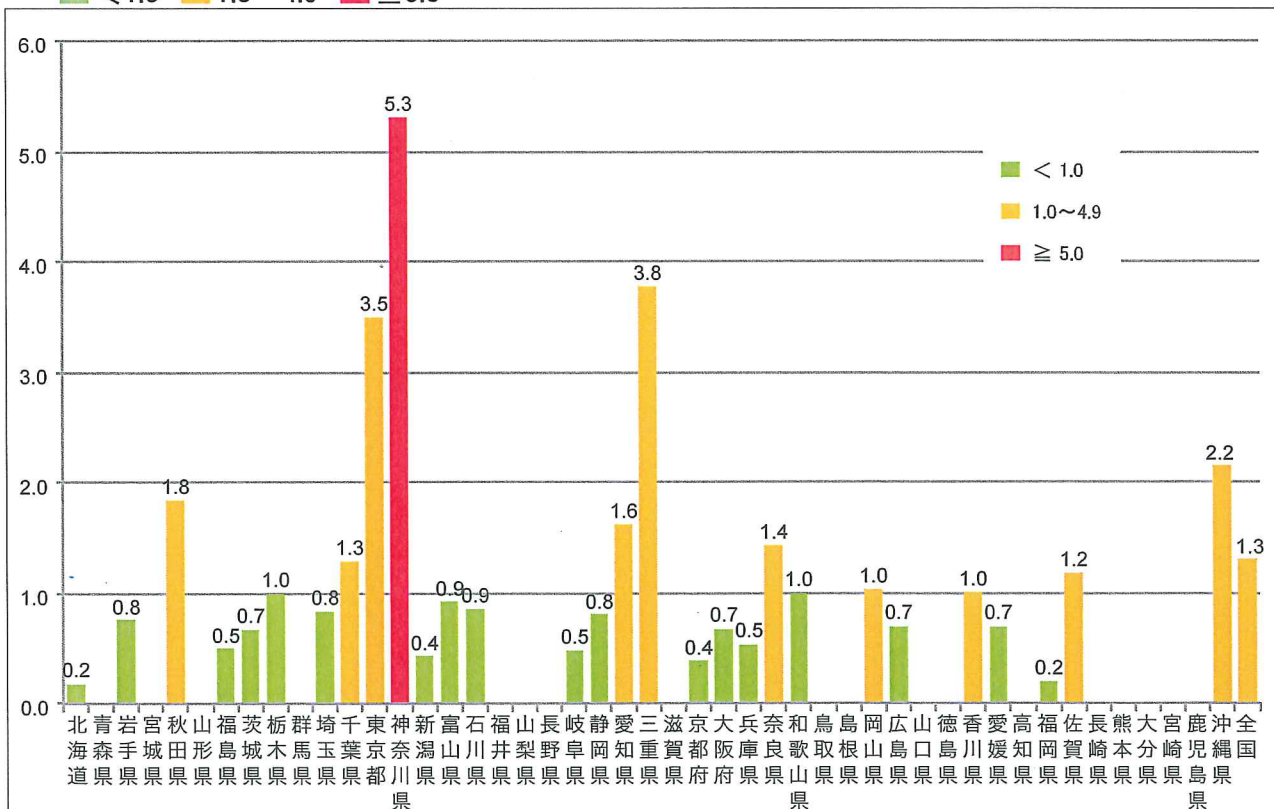


1. 風しん累積報告数の推移 2008～2014年(第1～17週)
 Cumulative number of rubella cases by week, 2008-2014 (week1-17)
 (based on diagnosed week as of April 30, 2014).



8. 都道府県別人口百万人あたり風しん報告数 2014年 第1～17週 (n=167)
 Number of reported cases per 1 million population by prefectures from week 1 to week 17, 2014
 (as of April 30, 2014).

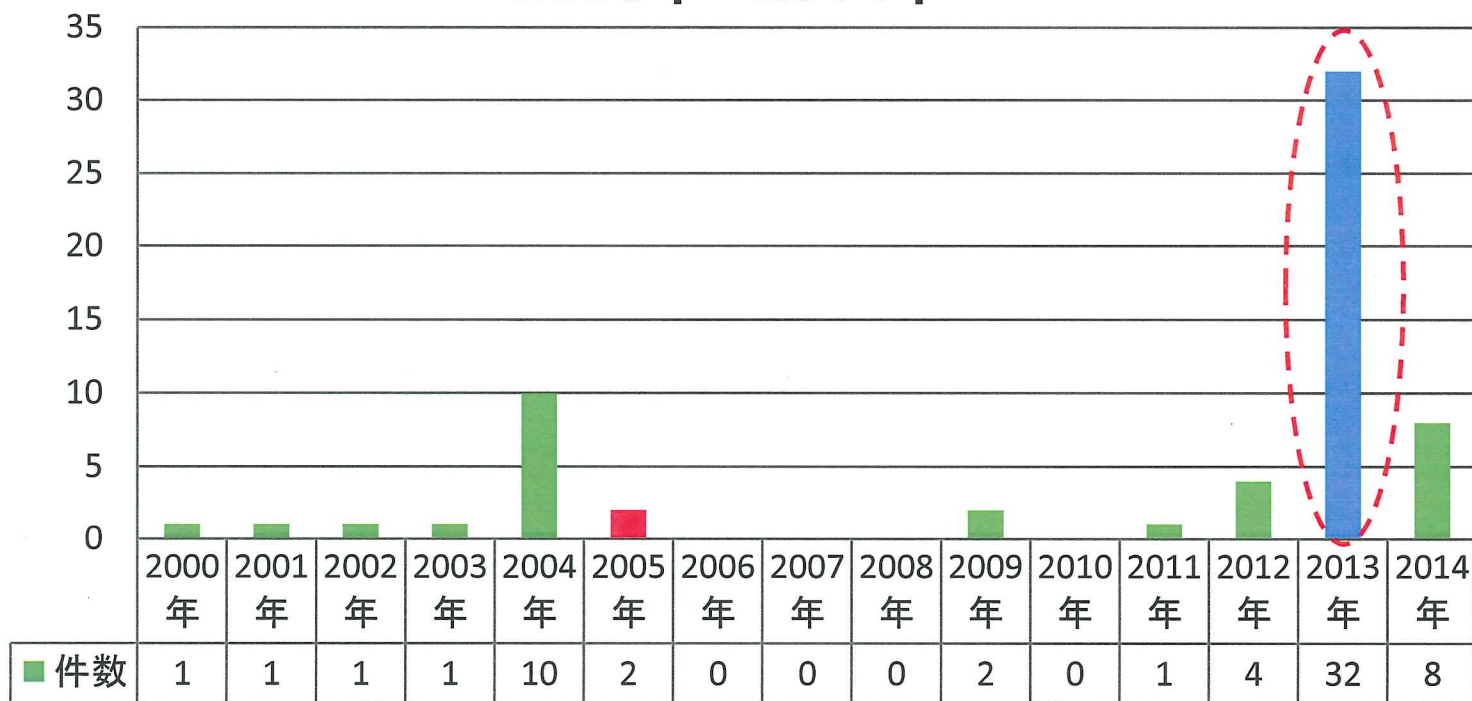
■ < 1.0 ■ 1.0～4.9 ■ ≥ 5.0



※図中の数値は小数第二位を四捨五入した値です。

感染症発生動向調査 2014年4月30日現在

先天性風しん症候群(CRS)報告件数 2000年～2014年



～先天性風しん症候群とは～

免疫のない女性が妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがある。風しんのサーベイランスやワクチン接種は、先天性風しん症候群の予防を第一の目的に考えている。